09

アンケート回答まとめ――探究のアイディア、高大連携について

2023 年 7 月 31 日開催シンポジウム・意見交換会「どうする？！「国語」の探究型学習」のアンケートに寄せられた「探究のアイディア・実践例」「「探究」に関連した高大連携についてのご提案・ご意見」をまとめました。回答をお寄せくださったみなさま、誠にありがとうございました。今後の参考にしていただければ幸いです。

1　探究のアイディア・実践例

※回答はハッシュタグをつけてゆるやかに分類しています。ご自身の興味関心からお読みいただければと思います。

 # くずし字　# カルタ

授業ではくずし字かるたを実践しています。今回のワークショップの中で、こちらが作ったものを提示するのではなく、作成の段階から生徒にさせてみては？という意見をいただきました。

 # くずし字　# 百人一首　# カルタ

百人一首（かるた）のくずしを読ませている。くずしの読解は評価対象にはしていない。

 # くずし字　# 源氏物語絵巻　# 和歌

源氏物語絵巻のくずし字でかかれた歌を探して、現代語訳と照らし合わせてその場面を読み深める学習を図書館で展開すると、様々な現代語訳もあるし、歴史考証にも繋がるので、探究に結びつけていきやすかった。

 # くずし字　# メタバース

メタバース上で、くずし字の読み合いなどができそう。都道府県を越えてできると面白いと思う。

 # 古典　# 竹取物語　# 徒然草　# 写真

『竹取物語』６人目の貴公子は、勤務校で実践したことがあります。

また、古典単語と写真を取り入れたもの（『うめ版 新明解国語辞典×梅佳代』にヒントを得ています。）。

中学生で文法など全く知らない段階では、『徒然草』の「友とするに～」（117 段）を読んで、一つ一つの理由を考えさせたうえで、現代版、自分版で悪い友と良い友を考え、グループワークなどすると盛り上がります。クラス替えしたばかりの中３で古典の導入でやると自己紹介的な側面もあるし、教員も個々の生徒について知る機会ともなり、手軽にできる割には、得るものが多くありました。ただ、これらが単発に終わらないように工夫する必要があるとも思いました。

 # 古典　# デザイン

「古典文学をモチーフとして、着物の柄をデザインしよう」（文学意匠の実践的学習）というＷＳは、既に授業で扱っ

たことがあり、面白く展開できた。同じ方向性で、現代のファッションや、菓子、フラワーアレンジ、公共の場でのインスタレーションなど、さまざまなデザインを考えさせるＷＳも行ってみたい。

 # 古典　# 声

読解の実践例が多いようなので、暗唱や朗詠など、古文の響きやリズムを体感させる指導が、特に入門期の小学生や学期初めの指導などで、もっとあってもいい。

 # 古典　#ICT　# 和歌

「古典文学」に関連した分野ですと、和歌を通した取り組みに大きな可能性を感じています。私自身も、授業で和歌を現代口語短歌に詠み換えたり、歌の景情を視覚化してカルタをつくったりと、ICT 機器を活用しながら様々な実践を試みているところです。「習得・活用・探究」という言葉でも説明される教科内の学びを、それぞれの段階でどのように発展させていけばいいのか、興味がございます。

 # 古典　#ICT　# アニメ

日本の古典とアニメ作品との関連を紹介する動画を作成し、日本語でプレゼンし、ゆくゆくは英語でプレゼンテーションする。日本の古典作品と郷土との関連を紹介する動画を作成し、YouTube で流して、地域貢献する。

 # 古典　# 地図　# 教科横断　# 地域

小説での土地のマッピングという実践例を聞きながら、大学で受けた王朝物語文学における移動についての講義を思い出し、平安文学においてもマッピングを行い、また日記文学等から、当時の移動がどんなものであったのか、当時の人の捉え方を探ったうえで、今日の自分たちに置き換えるならば、物語の中での「登場人物の A 地点から B 地点への手段 C による移動」は、現代で「どのような人物の、どこからどこまでの何による移動か」を考えてみたりすると、より自分たちに引き付けられるのではないかと考えました。

また、こうした学習を、学校がある地域を舞台にした作品で行えば、実際に歩くということが可能となり、理科や生活科（家庭科）と連携して、土地の成り立ちや暮らしや防災的な観点につなげていくことも可能ではないかと思いました。

 # 古典　# 地図　# 方丈記　# 平家物語　# 比較読み

古典の教科書で扱われる内容を、他の作品の書き方と比べながら異同を確かめる学習は意外に盛り上がりました。『方丈記』の「安元の大火」を一通り学習したのち、同じ内容が取り上げられる『平家物語』の当該箇所を読み比べてみると、火事による被害の書かれ方に差があります。これらを班でまとめさせ、そのうえで現在の地図に照らし合わせるとどのあたりまで火が広がったのか、などを確かめることは興味を持って取り組んでいたようでした。

 # 古典　#SDGs

古典教材を SDGs の観点から読むことです。

 # 古典　# 小説

全世界的な『文豪ストレイドッグス』人気や、文豪同士の関係性に興味を持つ学生も多く、同じようなネタを古典文学でも充分に活かすことができるのではないか。

 # 小説

小説の授業の総まとめとして、グループごとに異なる短編小説を読ませ、読みどころをスライドにまとめ、発表させる。ただの感想にならないよう、表現技法などに注目することを意識づける。

 # 小説　# 宮沢賢治

小学校では、なかなか探究学習と呼べるものはできてきませんが、例えば、宮沢賢治「やまなし」を他書籍や筆者のバックグラウンドをもとに、表現や意図を考え、発表する学習（他書籍は、「ありときのこ」「いちょうの実」）を、研究公開授業で行う予定でいます。今回伺った話から、「宮沢賢治になりきり文章を書く」という活動も面白いかなと思いました。

 # 小説　# 地図　# 夏目漱石　# 樋口一葉

夏目漱石・樋口一葉など、土地の性質を活かした小説を読み、実際に小説の舞台を歩いてみる。

（例、坂道の上と下の持つ意味など）

→創作（探究）としては、高校の周辺の土地を活かした小説を書いてみる。

 # 小説　# 地図　# 火垂るの墓

勤務校の授業では「火垂るの墓」の移動経路を地図化する課題を出している。それにもとづき、希望者を臨地授業として当該の場に連れて行くこともしている。

 # 創作　# 翻案

翻案などの創作を国語の「書く力」（小説・作品を他者に伝わるように書く力）や「読む力」（題材となる古典を分析的に客観的に読む力）と結び付けて考えていくのは面白いと思います。

 # 創作　# 和歌　# 連歌

和歌、連歌の創作。

 # 創作　# 模写　# 朗読

写本の模写、古典を題材にした創作朗読劇。

 # 創作　# 世阿弥　# 能　# 平家物語

基本的に、期末レポートではなく創作系の課題を課している。

例 1）「世阿弥の能楽論」もしも世阿弥が現代にいたら……？

例 2）「『平家物語』の能」平時子がシテの夢幻能を作ってみよう！

創作好きな学生たちも少なくないので、概ね意欲的に取り組んでくれていた。どちらの課題も、毎回の授業をきちんと理解して、世阿弥のイメージや夢幻能の基本的なテンプレートを自分の中に落とし込めていないと対応できないので、学生の理解度がきちんと現れる結果となった。

 # 創作　#ICT　# 絵巻　# 和歌　# 伊勢物語　# 徒然草　# 土佐日記　# 奥の細道　#ChatGPT　#SNS

①自分でやったことのある例

a）「絵」から読み取れる（推測される）情報について、「文字・文章」で確認する・掘り下げる。

⇒絵巻のようなものであれば、場面ごとに順序をバラバラにして提示して、実際にどんな順番なのかを推理した後で⇒そこに該当する本文を与えて読み解き⇒正しく並べ替える。

b）「伊勢物語」などの歌物語の「和歌」を現代語で考える

⇒本文を提示する際に、和歌の部分を空欄にしておき⇒自分たちで読解した内容をもとに、前後の流れを踏まえた「和歌」を考えさせる。

※ 5 ／ 7 ／ 5 ／ 7 ／ 7 の和歌になればすばらしいが、そこまでたどり着けずとも「和歌らしきもの（歌の歌詞のようなもの）」になっていれば OK とした。

② ChatGPT にツッコミを入れてみる。

⇒実際にまだ使って見たことはないが、オープンデータの少ない日本文学などの分野では、結構アヤシイ答えが出てくるそう。出てきた「回答」の妥当性を自分たちで「答え合わせ」⇒誤っている部分は「根拠」を挙げながら訂正⇒最終的に、自分たちで「回答」を作ってみる、が可能ではないか。和歌などの単元でやってみたら面白そう。

③作者や登場人物になりきって「SNS 投稿」

⇒たとえば、「徒然草」の複数の章段をグループやペアごとに与えて、いかにも兼好が言いそうな内容を（元の文章のパロディとして）インスタの投稿にしてみる。

ビジュアルを組み合わせることで、互いの作品を評価しあう面白さや、本文を現代の私たちの感覚にいかに置き換えるかという「理解＋活用・発想」の要素がより強くなるのではないか。

歌物語の登場人物や、日記の作者などで試しても面白いと思う。特に、「土佐日記」や「奥の細道」など「紀行文」の要素が入ったものだと、今の SNS の使い方と親和性が高いのではないか。

 # 創作　#ICT

デジタルと対面の双方を生かした、作品を作る授業。

#SDGs　# ディベート

環境問題に関する評論文単元で多数の図書資料を使ったディベートを行った。環境問題に関する書籍からどの資料を使ってどのように引用するのか学習させることがねらい。ディベート自体はフレームなので試合の形式にそれほどこだわらなくてもよいと思う。

 # 論理国語　# 教科横断　# ディベート

論理国語においてグローバル化を扱った評論と老荘思想の小国寡民を掛け合わせて読み、ミニ討論などを行いました。

 # 地域

地域教材の利用。

 # 日本語

最近、日本語が崩れてきているように感じるが、美しい日本語を維持できる方法が古典・伝統日本文学から探求できないだろうか。

 # 日本語　# ネーミング　# 公募

日本語（現代語）の、造語や略語の仕組み（語構成）や語彙の出自、文字表記について学修した後、一般公募しているネーミング（地方都市の魚市場食堂の愛称や新種の果物のブランド名を考える、など）に毎年グループで応募しています。あらかじめ教員が良さそうな公募を１つ探しておき、グループで課題に取り組みます。応募の前に、考えた名前について日本語学的な視点からグループ発表をしています。１度だけですが、実際に新しいみかんの名前で大賞をいただき、学生たちの考えた名前が採用され、後にそのみかんが流通しているという事実を見て、皆で喜びを分かち合いました。

 # ふりかえり

毎時間のアクティブラーニング後で、振り返りを二文で、教員がお題を作って学生に一枚の紙に書かせてきました。本人の出席チェックにもなり、活動を多角的に自己点検できます。教員は、コメントをたまに入れるだけにして、毎時間の参加度を点検できます。もちろん、次の時間には、数名よかった点を全員に伝えます。

 # 授業のありかた

大学でのゼミ的なことを高校の授業でも行うことができれば探究につながるのではないかと思った。関心に基づくものであるため、個人でもグループでも形態はいくつかのパターンに分類でき、探究になるのではと思った。

 # 授業のありかた

創作から学ぶことは多いと思いますが、（真の自己）を表現するといった前提や目標を示すことは困難であろうと思います。まして評価が絡むとなおさらです。はじめから、授業を公の場と設定し、公の場で共有できることという前提を示しておくこと、またそこで共有することは虚構であっていいという前提を示すことも必要であると思います。そうしても苦しさを抱える生徒はいると思いますが、せめてそうしないと、授業担当者が何も知らないまま生徒が苦しむことがあろうとおもいます。

探究的な授業のさまざまな事例を共有することは大切ですが、一方で特別手のかかる授業にしてはいけない、問を立てるところをいくらかでも探究する主体である生徒自身に委ねたいということがあります。通常のアクティブラーニング型授業の中で生徒が疑問をもち、これまでの学習との関連の中から考察したり調査したりするならば、あえてかまえなくていいし、本来研究とは、イベントから生まれるよりも、ふとした気づきから生まれていくもの

だとしたら、探究的な授業は必ずしも非日常型ではなくていいのではないかと考えました。

 # 授業のありかた

探究型、と括ることで言葉と言葉のつながりに対する習熟の弱さが見えてきます。あらためて国語としてやるべきことのTO DOリスト。

 # 授業のありかた

探究の方法よりも、学修者の能力伸長という目的に合っており、かつ教材にふさわしい応用を模索し、実践しています。

2 「探究」に関連した高大連携についてのご提案・ご意見

アンケートに寄せられた「「探究」に関連した高大連携についてのご意見・ご提案」をまとめました。回答をお寄せくださったみなさま、誠にありがとうございました。いただいたご意見を受け止めて活動してまいります。

1

大学の先生方の発想を高等学校が受け入れられるような素地を高等学校に作っていく必要がある（特に心情面）。

2

そもそも高校側から大学にどうやってつながればいいのか、取っ掛かりを教えてほしい。

3

小学校教諭ですので、幼小中連携がよく騒がれていますが、私個人としては、小学校の学びは探究の素地だと考えています。そのため、今回のような高校・大学での探究学習をうかがう機会をいただけることで、より系統的に学びをデザインし、子どもたちのためになるのではないかと考えさせられる、貴重な機会となりました。

4

大学の授業の方が自由度が高いという意見が出ていたかと思いますが、大学で行われている様々な国語に関する授業を実際に高校生たちが受けてみて（視聴してみて）面白いと思った活動を実際に高校で取り入れてみて欲しいと思いました。

5

各大学・研究者がさまざまな取り組みをされている一方で、それがどの程度高校に届いているのだろうかと疑問に思っています。高校側と大学側がマッチングできるような相談会などがあっても面白いのかもしれないと思いました。

6

会場からも意見が出ていましたが、「探究」と「入試対策」「評価」との両立の難しさは日々実感しています。ただ、二項対立で捉えるべきではない、という点には賛成です。

7

大学入試が探究学習と直結しないもどかしさがある。

8

探究型にすると教科をはみ出してしまう。教科外の専門性をどう教える側が確保していくかが課題ではないかと思っています。

9

私自身が古典文学にひかれていったのも、授業外での活動が多くかかわっていたようにも思いますので、より高大の連携が強まれば、興味や意義を感じられる人も増えるのではないかと思います。実学や科学も大事ですが、人

文学が軽視されるのは良くないように思いますので、その点においても、探究に関する高大連携がなにか効果を発揮できるのではないかと感じます。

10

オープキャンパスなどでは実際に講義に参加できたり、大学生と共に活動したりすると思うのですが、そこには意欲がある人しか辿り着くことができない、と個人的には感じています。勤務校でも進路指導の一環で大学ごとのもの、分野ごとのもの、と年２回大学の方をお招きしてガイダンスを実施していますが、パンフレットを一緒に読む時間になってしまっております。私自身、大学の先生や先輩方の研究テーマに興味が湧いて大学や学科を選んだということもあり、高大連携に関わる皆さんの負担がこれ以上増やさずにもっと大学や研究の魅力が伝わる方法は無いのか、私自身もこれからの課題としたいと思います。

11

いっそ自分で決めた課題について、演習形式の発表を大学生のチューターをつけてやらせてしまう、というのはどうでしょう。

12

両者が効果的であれば良いですが、高校の現場側はどうしても安い値段、こちらの時間に合わせて大学に無理にお願いすることが多いような気がして反省しています。

13

高大と接続する学校の連携よりも、大学、小学校との連携などを積み上げていくといいと感じています。学びにどん欲な高校生ならいいのですが、思春期特有の人見知り的な側面や頑張りを見せたがらない部分などがあるとせっかくの機会を逸してしまいます。小学生くらいからの積み重ねがあるとそのようなことが軽減されるのではと思います。

14

題材については、普段から生徒と関わっている高校の教員が設定するのが良いと思いますが、「探す」ことや「究める」ことは大学の先生方のほうが専門的だと思いますので、そのような役割分担ができるとスムーズなのではないかと思います。

15

高校は中学へ、大学は高校へ、入学するときに進学した学校であらまし読みしておく本を 74 冊決めておく。学校を卒業するまでの一つの読書目標を事前に知っておくということは、教員のやる気も見せられ、生徒学生も登るべき山を知ることになるのでは？と思っています。

16

評価の方法や１年通してをどうおこなっていくかが、偏差値の低いところではむずかそう。

17

今回のシンポジウム後半で、受験制度と探究型学習がどのように関連付けられるかという点が、重要な問題だと考えました。高大の教員・生徒・学生・職員が集い、探究型学習により大きな意味をもたせるための受験制度の確立について、議論する機会があると良いように思います。

18

個人的には、需要はあるのに仲介というかマッチする場が少ない（目立っていない）ような気がしています。そのため、高大連携のプラットホームがあると非常にやりやすいなと感じている次第です。

19

グループワークでも意見を述べましたが、やはり「祝祭的」な連携のみではなく「恒常的」な連携ができるといいなと思いました。イベントを企画するだけではなく、カリキュラムの接続をより感じられるような形に整えてい

くなど、いろいろやり方は考えなくてはならないと思いました。

20

「大学の研究者の研究内容が高校教師に共有されていない」という意見がありましたが、同感です。研究者は、古典の授業を念頭に、教育現場を意識して、研究内容のフィードバックを試みるべきではと思いました。

21

時代考証を現代風に解釈するのも一面面白いが、昔も今も足して割るだけになるのは一時の興味。時代別の価値観と現代価値観の差違の変遷を理解するのに興味がある。

22

私は大学院の博士課程兼高校の非常勤講師という立場にあります。つまり大学にも高校にも所属している中間的な立場にあり、橋渡しをできるのではないかと考えています。

私の教える高校では、積極的に大学の話を授業でしてほしいと言われているので（高校三年生を担当しています）、生徒から定期的に大学のことで聞きたいことを集めてそれに応えたり、大学のゼミではこのようなことをやっているということの紹介や、実際にプレゼミをやってみるなどもしています。

23

小論文のように「受験に必要な通過儀礼」にしない、ならないように連携したい

24

地方の高校はなかなか大学との連携の機会が難しく（理系の実験分野は高大連携や早期教育が進んでいますが）、オンラインをうまく活用しつつ、私のような地方の高等教育機関である高専教員が首都圏の大学と地方の学校の中継になるのもいいな、と思います。少しでも教育格差、経験格差の是正になれればとも考えていました。

25

高校へ大学教員が出張授業する、アドバイザーとして大学生や大学院生と共に高校教員が授業する、など。

26

「探究的」な学習を取り入れた場合、ともすると「活動」自体の面白さに主眼が置かれてしまい、「楽しく活動したけれど、それが根拠に基づいた理解（もっと言えば受験に役立つ知識の理解）にどうつながるの？」という反論にさらされることになってしまいがち。

たとえば、個々の活動の前後に入れられるような、教科書教材に関する「ミニ講義」のネタを大学側からご提供いただけると、現場の教員（特に経験の浅い教員）の負担が軽減されるのではと思う。

何より、「探究」してきた生徒たちの学びが入試の場でも発揮できるようになっていくと、現場としては自信をもってやっていけるのではないか。

27

大学教員からの授業実践の提案、高校教員からの研究への提言など、もっとあってもよいか。また、入学試験の意味を問うことも必要では。

28

「学び」はハレではなくケでなくてはならないという意識が大切であると思っています。

29

探究それ自体が目的化しないためにも、それぞれの教育機関でどのような学びが必要なのかの意見交換や事例共有、そして研究を今後も一緒に繰り返していければ、と思っております。

高等学校で「総合的な探究の時間」の時間が始まり、SSH 指定校など一部の学校では高度化した課題研究だけが「探究」の成功例だとされる風潮もあります。「大学でやるようなこと」を高校段階で生徒にやらせるだけの連携は、ただの早期教育と何ら変わりません。高校の教員も、大学関係者の方々と情報共有しながら中等教育機関で

の学びをもう一度見つめ直す必要があると思っています。その一つの鍵となるのが、アクティブ・ラーニング型の学び、それにつながる内発的動機づけ、自らの在り方生き方との結びつけだと思っています。

「探究」を広い視野で捉え、キャリア教育の視点や生涯発達的視点から捉えていけたらと思っています。今後、高大の諸先生方と一緒に実践・研究させていただける機会があれば、ぜひ勉強させていただきたいと考えております。

30

まずは外部の研究者に生徒がテーマ発表や研究発表を行いでプレゼンをすることで、校内とは違う視点からのフィードバックが生まれる。大学での研究についても詳しく知ることができるため、将来の自身の進路デザインにも役立つ。

31

大学生が考えてくれたプリントを用いて、実際に高校で授業をしてみたいです。